

奈良県感染症情報

平成 28 年 15 週(4 月 11 日 ~ 4 月 17 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.91	(4.88)	➔	➔	↗	↓
2	インフルエンザ	2.70	(4.94)	↓	↓	↓	↓
3	流行性耳下腺炎	1.41	(1.74)	➔	➔	➔	↓
4	A群溶連菌咽頭炎	1.38	(1.21)	➔	➔	➔	➔
5	突発性発しん	0.53	(0.65)	↗	➔	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➔横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

感染症は全体的に落ち着いて見えますが、一部地域で患者数が増加しているものがあります。

感染性胃腸炎が、中和保健所管内(旧葛城保健所管内)で増加しています。感染性胃腸炎の患者は1歳~3歳児の報告が多くなっています。また、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は例年より高いレベルで推移しており、郡山保健所管内で特に報告が多い状況です。基本的な感染予防として手洗い・うがいを励行しましょう。

インフルエンザの定点あたり報告数が2.7となり、県内全域で減少しています。インフルエンザは定点あたりの報告数が1.0を下回るまでは油断できません。引き続き感染予防を心がけてください。

奈良県医師会からのお知らせ

伊勢志摩サミット等開催に伴う感染症にかかる健康危機管理体制について

5月26日・27日に伊勢志摩サミットが開催されるにあたり、テロ未然防止対策の観点から、自治体等での感染症に関する健康危機管理体制の確認が求められています。

また、国立感染症研究所では、テロ対策として疑似症定点医療機関からの届出情報をもとに、原因不明の重症の感染性呼吸器疾患および原因不明の感染性皮膚疾患等の発生動向を注視されます。疑似症定点各位におかれましては、改めて届出基準をご確認いただき、感染症危機管理にご留意くださいますようお願いいたします。

❖❖ ゴールデンウィークに海外へ渡航される方へ~感染症にご注意ください~❖❖

- 海外では、日本にはない病気がたくさんあります。海外旅行では、時差や気候の違いなどから、(自覚していなくても)様々なストレスを受けます。この結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなってしまいます。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にしましょう。
- 現地で気をつけること
 - ✓ 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、**虫よけ剤**を使うなどしましょう。
 - ✓ 中東へ旅行する方はラクダとの接触や、無殺菌のラクダ乳の摂取は避けましょう。
 - ✓ 動物は狂犬病、MERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、むやみに触らないようにしましょう。
- 出発前に確認しましょう
 - ✓ 渡航先で流行している感染症について
 - ✓ 渡航先で具合が悪くなったときのために、医療機関情報について
- 帰国時・帰国後に具合が悪くしたら
 - ✓ 帰国後に症状が出た方は、蚊に刺されないように注意し、病院受診の際に渡航歴を必ず話してください。受診方法で分からないときには検疫所または保健所にご相談ください。

参考:厚生労働省検疫所海外旅行者のための感染症情報(検疫所 FORTH)

次週(第16週分)の発行は、4月28日(木)午後になります。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 28 年 第 15 週 4 月 11 日 ~ 17 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	54	11	16	11	11	2	3	
インフルエンザ	146 (2.70)	29 (2.64)	53 (3.31)	19 (1.73)	40 (3.64)	4 (2.00)	1 (0.33)	
小児科定点数	34	7	10	7	7	1	2	
RSウイルス感染症	4 (0.12)	1 (0.14)		1 (0.14)	2 (0.29)			
咽頭結膜熱	9 (0.26)	1 (0.14)	5 (0.50)		3 (0.43)			
A群溶連菌咽頭炎	47 (1.38)	8 (1.14)	7 (0.70)	3 (0.43)	28 (4.00)		1 (0.50)	
感染性胃腸炎	201 (5.91)	33 (4.71)	55 (5.50)	40 (5.71)	73 (10.43)			
水痘	6 (0.18)	2 (0.29)	1 (0.10)		3 (0.43)			
手足口病								
伝染性紅斑	12 (0.35)	3 (0.43)	3 (0.30)	6 (0.86)				
突発性発しん	18 (0.53)	4 (0.57)	4 (0.40)	5 (0.71)	5 (0.71)			
百日咳								
ヘルパンギーナ	2 (0.06)		2 (0.20)					
流行性耳下腺炎	48 (1.41)	8 (1.14)	21 (2.10)	13 (1.86)	6 (0.86)			
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	5 (0.56)	2 (2.00)	1 (0.33)	1 (0.50)	1 (0.50)			
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎								
マイコプラズマ肺炎	2 (0.33)		1 (0.50)		1 (1.00)			
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	6 (1.00)	2 (2.00)	2 (1.00)		2 (2.00)			

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件(奈良市1、郡山1、中和3)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌感染症2件(中和2) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(奈良市1) 梅毒1件(奈良市1)

❖ 第15週のトピックス ❖

感染症に注意しましょう!! (奈良県保健予防課HP)

<http://www-cms.pref.nara.jp/item/158470.htm#moduleid17426>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

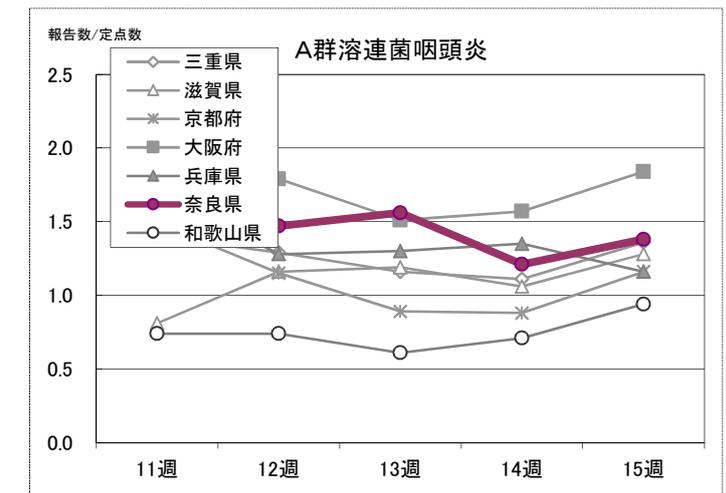
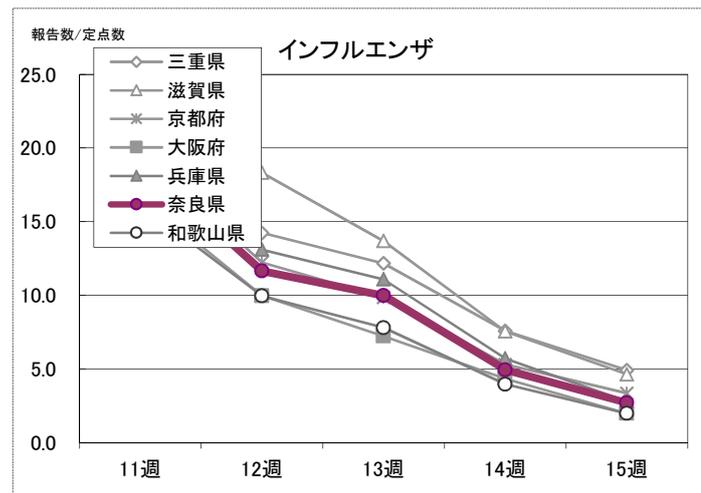
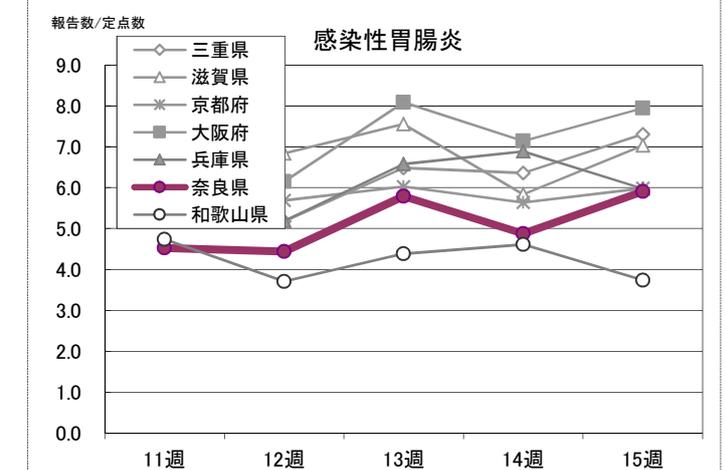
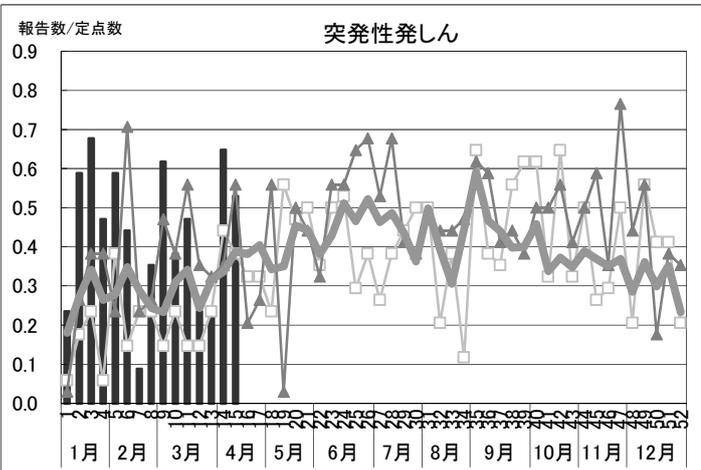
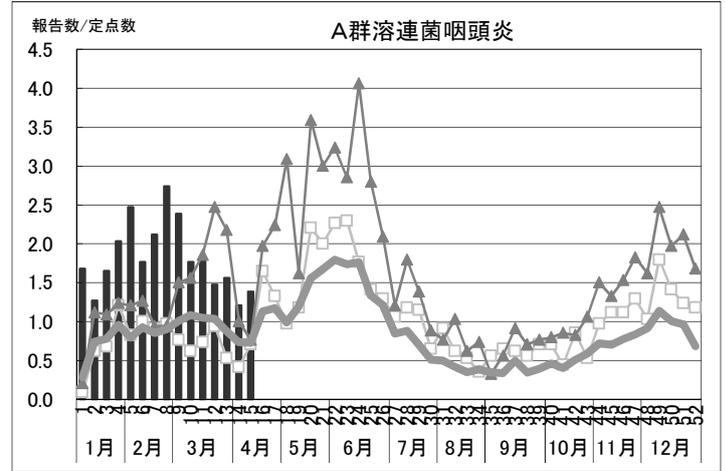
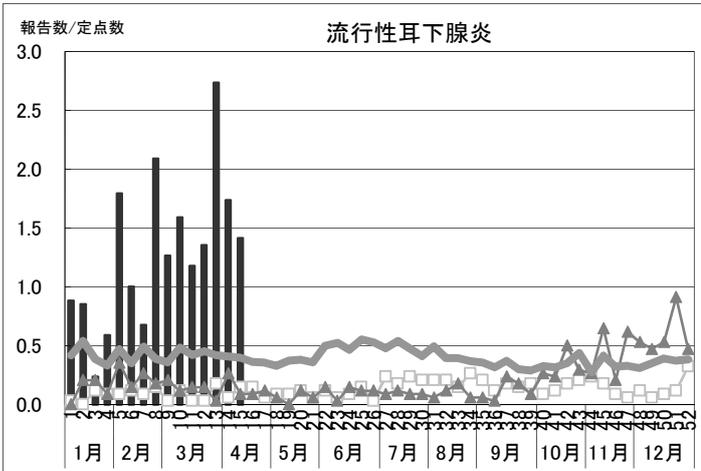
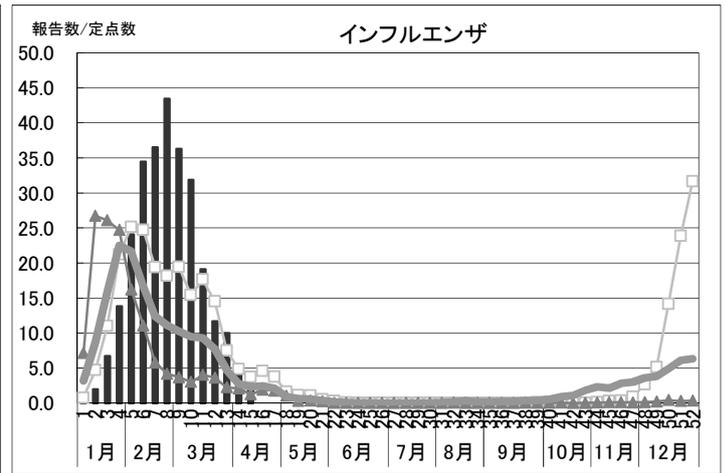
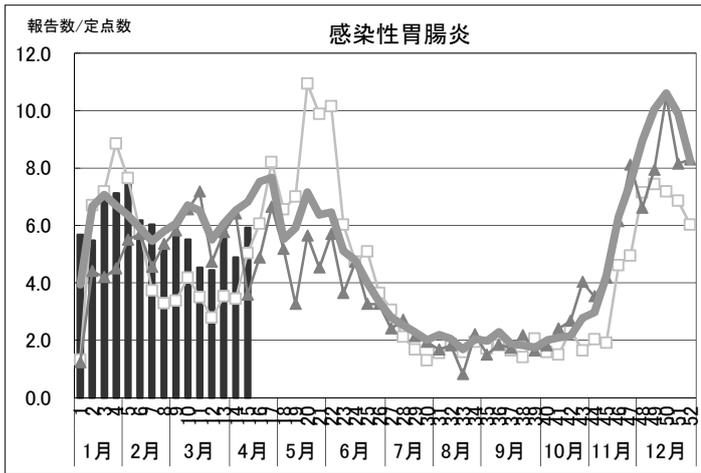
上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男		3	4	6	5	3	5	5	2	3	3	14	6	3	3	3	4	5	3	1	81	7640
	女		1	3	1	3	4	3	5	4	1	1	8	5	3	3	6	7	5	2		65	7405
RSウイルス感染症	男		1	1																		3	137
	女	1																				1	129
咽頭結膜熱	男		1	2	1					1												7	88
	女			1			1			1												2	87
A群溶連菌咽頭炎	男			2	2	1	7	6	1	2	1		2									22	484
	女			1	1	4	3	6	1	2	1	3	2		1							25	444
感染性胃腸炎	男		2	17	23	13	13	7	2	7	4	2	8	3	6							107	1558
	女		3	15	20	12	12	7	4	4	2	3	1	3	8							94	1413
水痘	男			1	1					1												3	78
	女			1		1			1													3	56
手足口病	男																						2
	女																						1
伝染性紅斑	男				1	1			1				1									4	170
	女			1	2	1	2		1				1									8	153
突発性発しん	男		4	6	1	1																12	118
	女		3	3																		6	105
百日咳	男																						3
	女																						
ヘルパンギーナ	男				1						1											1	3
	女																					1	2
流行性耳下腺炎	男				1	1	3	3	3	3	2	1	6									23	363
	女				2	3	2	6	2	2	1	3	3		1							25	296
急性出血性結膜炎	男																						1
	女																						
流行性角結膜炎	男													1	1					1		2	19
	女																			1	1	3	24
細菌性髄膜炎	男																						3
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						1
	女																						2
マイコプラズマ肺炎	男			1																		1	38
	女			1																		1	38
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男		2	1																		3	46
	女		2	1																		3	35

❖ 注目疾患の動向 ❖ 全て定点当たり報告数

■ H28 ▲ H27 □ H26 〰 過去10年平均



今シーズンのA群ロタウイルスの解析状況について

<A群ロタウイルスの調査について>

A群ロタウイルス（Rota virus group A 以下RVA）は、ほとんどの人が5歳までに1度は感染します。ワクチンの任意接種が始まったことでウイルスの流行株にどのような影響を与えるのか、亜型の解析を含めたウイルスの詳細な調査が求められています。当センターでは2008年からRVAの亜型の解析を継続して実施し、その流行状況を調査しています。ワクチン接種開始後の2013/14シーズン（2013年9月～2014年8月までの1年を「シーズン」としてしています）には患者数は激減しましたが、2014/15シーズンにはG1P[8]を主とする流行が見られ昨年の保健研究センターだより5月号でお知らせしました。

今シーズン（2015/16）は、一部地域で年末から流行がみられ、12月、1月、3月にはRVAによる集団感染性胃腸炎も発生しました。今シーズン（2015年9月～2016年4月）のRVA解析状況についてお知らせします。

<調査結果>

感染症発生動向調査でRVAが陽性であった検体117例について亜型解析を行いました。検出したRVAの遺伝子型は、G2P[4]の検出が113例（96.6%）、G9P[8]が2例（1.7%）、G3P[8]が1例（0.9%）、G1P[8]が1例（0.9%）でした。これまでの主流株であるG1P[8]、G3P[8]は合計2例と非常に少なく、G2P[4]が2008年からの調査以降初めて主流株となり、地域差はありませんでした。

患者年齢は0歳～20歳で2歳代が29例（24.8%）と最も多く、5歳以上の患者が32例（27.4%）いました。また、子どもから親兄弟に感染する家族内感染例もありました。ワクチン接種歴のある患者が117例中32例（1価ワクチン30例、5価ワクチン2例）含まれており、ワクチン接種歴のある患者からはすべてG2P[4]を検出しました。ノロウイルス、コクサッキーウイルス、サポウイルス、アデノウイルスに重複感染している例が8例ありました。

RVAによる集団発生事例3例ではいずれもG2P[4]を検出しており、保育所、小学校で発生していました。

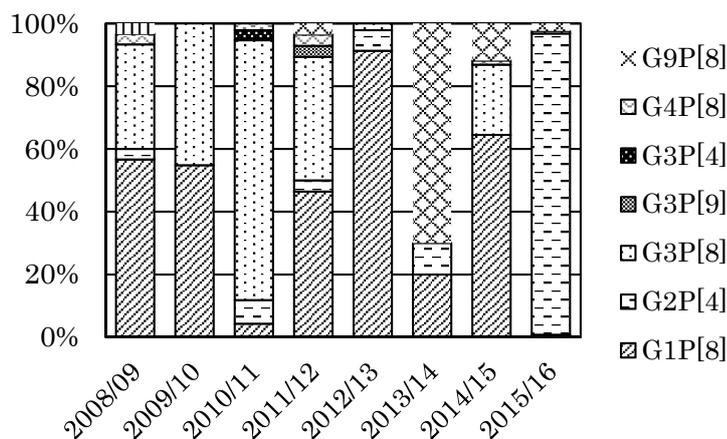
今シーズンのG2P[4]の流行は、通常罹患する0～5歳児以外にも、すでに免疫を獲得している年長の人やワクチンを接種した人にも広がっています。これはG2P[4]のウイルスの内部タンパク質が、G1P[8]、G3P[8]やワクチン株と異なっているため、交叉防御能が十分に機能しなかったと考えられます。

今回、県内で初めてRVAを成人から検出しましたが、すでに千葉県、茨城県、アメリカでもG2P[4]を原因とする成人の集団感染例が報告されています。また、ワクチンの影響かは明らかになっていませんがブラジル、ベルギーなどでワクチン導入後にG2P[4]が優勢になったという報告もあり、ワクチンとの関連調査が必要です。

今後も継続したウイルス動向のデータを蓄積し、県内の流行の変化・変動を詳細に解析・把握に努めていきたいと考えています。奈良県感染症発生動向調査にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

<ウイルス・疫学情報担当>

シーズン別遺伝子型割合



シーズン別患者年齢割合

